

韓国・朝鮮の遺族とともに

遺骨問題の解決へ

8月11日(金)

18:30~21:00

【会場】18時開場

カテドラル大名町

カトリック教会

※ 福岡市大名町2丁目
西鉄グランドホテル前

※ 参加費 1,000円
(前売 800円, 学生 500円)

◆ 主催

強制動員真相究明
福岡県ネットワーク

◆ 協賛団体 (あいうえお順)

関釜裁判を支援する会 在日本
大韓国民団福岡県地方本部、
在日本朝鮮人総連合会福岡県本
部、7・7集会実行委員会、日本
コリア協会・福岡、日本ジャーナ
リスト会議・福岡支部、福岡県教職員
組合、福岡県人権研究所、福岡
市教職員組合、ふくおか自由学
校、福岡地方パブリック連合社会委
員会、仏教徒非戦の会・福岡、
部落解放同盟福岡県連合会、平
和・人権・環境福岡県フォーラム

本集会は、この夏全国で取り組まれる韓国・朝鮮の遺族をお招きしての証言集会の一環として、福岡において企画されています。私たちが住む福岡県には17万人以上の朝鮮人が強制連行され、数千人が炭坑事故や病気で亡くなりました。そのうち、いまだ遺族の元に手渡されていない遺骨が、韓国の「望郷の丘」や県内各地の追悼塔や寺院に散在しています。

昨年、日韓両政府の間で強制連行された朝鮮人の「遺骨返還」をめぐる協議が続いています。私たちは、この課題に市民の側から関わり、一体でも多くの遺骨を遺族にお返しし、「いつ、どこでどのように亡くなったのか」をお伝えするために福岡県内で調査活動を行っている市民・研究者のグループです。

隣国の人々との信頼関係を築いていく重要な取り組みだと考えています。少しでも多くの人々にこの問題への認識を深めていただくために、3人の方々をお呼びし、証言と講演の集会を企画しました。

多くの皆さまのご参加を呼びかけます。

***** 集会プログラム *****

◆ 証言

韓 鶴洙(ハン・ハクソ)さん

叔父(母の兄)李鍾完さんが、三菱飯塚炭坑のガス爆発事故で死亡した。遺骨の所在を探し求めていたが、今回、穂波町の火葬認可証の記載から叔父の死亡とその経緯の一端が確認された。



◆ 講演

張 錫京(チャ・シギョク)さん

— 骨が語る「私はここにいる、早く故郷に帰してくれ」 —
日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会所属。遺骨を調査し、遺族に引き渡す専従調査官。

金 光烈(キム・グァンリョ)さん

— 筑豊で憤死した犠牲者の恨を晴らすため、
過去帳を追いかけ続けた30年 —
30年にわたって筑豊の朝鮮人強制労働の調査に従事。著書に「足で見た筑豊～朝鮮人強制労働の記録」(明石書店)がある。